

平成 27 年度 地域貢献活動支援報告書

所 属 人文学部
氏 名 塚本 明

活動テーマ	郷土資料館を活かした文化交流事業～勢和プロジェクト～
実施期間	平成 27 年 6 月 1 日 ～ 平成 28 年 3 月 31 日
活動内容	<p>(1) 具体的な活動実施内容</p> <p>多気町勢和郷土資料館が架蔵する、同町勢和の名刹・西導寺から出た襖の下貼り文書の調査を、塚本研究室と地元の市民グループ「勢和語り部友の会」と共に実施した。7月31日に多気町郷土資料館にて予備調査を行い、教育長、担当課長及び郷土資料館職員の塩谷弘子氏を含めて事業の進め方を相談した。その後、10月25日、12月20日、2月21日と3度にわたり、学生・院生及び地元住民と共同調査を行い、30枚余の襖から江戸時代前期から明治期にかけての古文書約3千点を剥ぎ取り、内容別に整理すると共に保存の手立てを図った。また随時住民向けに史料の概略を説明した。主要な史料についてはデジタルカメラで撮影し、今後の活用に備えた。</p> <p>(2) 地域への貢献（地域の発展・活性化への寄与、広がり）</p> <p>多気町では文化財整理の技能と労力を必要とし、とりわけ合併後の勢和地区にある郷土資料館は、収蔵史料が放置されがちであった。一方で、住民グループは地元の歴史文化に関する情報を強く欲していた。今回の事業は、住民の方々にも調査に参加して頂くことを通して、文化財を身近に感じ、その価値を認識する機会となった。多気町郷土資料館では今回の調査成果を2016年度の展示において活用下さるとのことである。</p>

(3) 共同実施者との連携状況

多気町教育委員会、郷土資料館の塩谷弘子氏とは、当初から一貫して密な関係を維持しており、また住民グループと参加学生たちとの間も、親睦を深めることができた。大学が地域に入って作業をすることによる成果は充分にあがったと考える。

(4) 大学の教育・研究成果のかかわり

参加した学生・院生たちにとって、原文書に触れる貴重な経験であっただけでなく、文化財の保全や活用の仕方を学ぶことになった。今後の大学における教育にも活かせる作業となった。また、世代が上の地元社会人の皆さんと一緒にを行う作業は、経験値やコミュニケーション能力を高める上でも意義があった。

(5) イベント等開催実績（名称，実施場所，参加人数等）

予備調査（7月31日）：多気町郷土資料館、三重大4名、多気町4名。
本調査：10月25日、勢和郷土資料館、三重大6名、多気町9名。12月20日、勢和郷土資料館、三重大4名、多気町8名。2月21日、多気町郷土資料館、三重大14名、多気町12名。

(6) これまでの取組みによって得られた具体的な成果について

調査の結果、西導寺の梵鐘改鋳費用を広範囲の地域から寄進を得た史料群、勢和丹生の旅籠屋や和菓子店の経営史料、18世紀前期の往来手形など旅人に関する史料などを見出した。当時の勢和丹生地区が全国各地と密に結び付いていたことを示す貴重な史料である。多数見出した丹生暦と共に、新たな文化財の発掘が、一番の成果であった。またその作業を学生や地元住民グループと共同で行うことで、郷土資料館にある地元の史料に対する関心も高まったことと考える。多気町にとっても、郷土資料館を核とする大学と地域連携のひとつのモデルとなったであろう。



